

基本方針

墨田区文化振興財団は、長年、新日本フィルハーモニー交響楽団(以下「新日本フィル」という。)と連携しながら、すみだトリフォニーホールでの音楽事業や区内各所におけるアウトリーチ活動を展開し、平成 28 年開館のすみだ北斎美術館では、世界に誇る「北斎」を紹介する展覧会を中心に事業を推進している。さらに昨年度からは、地域で行われる多彩な活動を支援すべく、「すみだ文化芸術活動助成事業」などに取り組み始めた。

平成 30 年度に墨田区からの委託により実施した「文化芸術振興のあり方」検討調査では、「墨田音楽都市構想」の歩みを振り返り、多様な担い手による文化芸術活動の広がりを概観するとともに、先般改正された「文化芸術基本法」の理念と背景を考察した。そのうえで、すみだ固有の資源を活用し、文化を通じたコミュニティ形成と「地域力」の向上を目指すものとし、当財団としても中間支援機能の強化に努めることを標榜した。

それは本区の重要な二つの文化施設の管理運営にも通底する考えであり、文化芸術活動の拠点であるとともに、地域の魅力を高め、活性化に寄与する役割が従来にも増して求められている。すみだトリフォニーホールは、これまで「墨田音楽都市構想」を牽引する中核施設として、新日本フィルの活動本拠地となり、プロからアマチュアまで幅広く利用されて多くの観客を迎えてきた。さらに区内全域に及ぶアウトリーチ活動の実践は、他に比類なき蓄積といえる。こうした 20 年以上に及ぶ成果は大きいものの、時代の要請や社会環境の変化等を勘案し、いま一度、ホール内外での事業を検証し、再構築していく時期にきているといえる。

一方、すみだ北斎美術館は、丹青社との共同事業体による運営で創意工夫と試行を重ねながら、平成 30 年 7 月末には累計 50 万人の来館者を達成した。北斎生誕の地に開館した美術館として注目を集め、国際的に北斎が再評価されている中で、「北斎」を手掛かりとする観光誘客や「すみだ」のシティプロモーション、さらには両国界隈の賑わい創出への期待もある。持続的な館運営のため、区や地元事業者等との協力関係を深めることはもとより、魅力的な展覧会の開催につながるよう、他館やメディア等関係者とのネットワーク構築がいっそう重要になっている。

当財団が指定管理者として両施設の管理運営を担う期間は、2021 年 3 月末で節目を迎える。それに向けて平成 31 年度は、以下の方針に基づき、財団運営及び事業を実施する。

- すみだトリフォニーホール、すみだ北斎美術館の指定管理者として各施設を適切に管理し、本区のブランド力を高める文化拠点となるよう、優れた事業を実現する。
- 両施設で行う事業はもとより、区内各所で多彩なアウトリーチ活動や教育普及活動を実施し、学校や文化団体等と連携しながら、地域における文化芸術活動の活性化をはかる。
- 地域で起きている様々な文化的事象を把握し、文化芸術振興に関する相談に応じて情報を提供し、場と人材をつなぐ中間支援組織としての役割を担う。
- 墨田区との連携を強め、文化芸術振興のための制度設計や拠点の活用策などについて、事業実施の現場からの提案を行い、協議を進めていく。

- 各事業における目標管理と評価を行い、PDCA サイクルによる改善を実現していく。これまでの手法や実績にとらわれることなく、選択と集中による事業企画と制度設計に取り組み、効率的で効果的な事業運営を徹底する。

事業体系

I すみだトリフォニーホールを核とする音楽等の振興事業

1. 音楽等の鑑賞機会の提供
2. 区民等による音楽活動の促進及び育成
3. 公演情報等の発信
4. 施設の利用及び維持管理に関する業務

II すみだ北斎美術館を核とする美術等の振興事業

1. 資料収集・保管事業
2. 調査研究事業
3. 展示事業
4. 教育普及事業
5. 図書室運営事業
6. 施設の利用及び維持管理に関する業務

III 墨田区域における文化芸術活動の支援事業

1. すみだ文化芸術活動助成事業
2. 「すみだ文化芸術情報サイト」の運営
3. 文化政策及び文化事業に関する調査
4. アートプロジェクト等の推進事業
5. 地域における文化芸術活動への協力及び参加

I. すみだトリフォニーホールを核とする音楽等の振興事業

本年度も新日本フィルとの協働により、ホール内外での様々な事業を展開するほか、新日本フィルの主催プログラムとの差別化をはかりつつ、自主・共同主催等による公演を企画し、実施していく。東京東部を代表するコンサート専用ホールとして、独自性の高い企画によるブランドイメージの向上と発信力の強化により、多くの聴衆を招くことを目指す。

あわせて、新日本フィルによる区内全域でのアウトリーチ活動や、同楽団メンバーが指導するトリフォニーホール・ジュニア・オーケストラの運営を継続して行いながら、その手法と成果について検証していくこととする。

一方、優れた音響と立地のよさも当ホールの強みであり、プロアマ問わず幅広い音楽団体等に利用されているが、施設の老朽化が進んでおり、安全で快適な施設利用ができるよう設備の点検等を徹底するとともに、高い専門性とホスピタリティに支えられた施設運営を実現してまいりたい。

なお当ホール及び財団は、平成 30 年度から 5 年間にわたり、文化庁(日本芸術文化振興会)の「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業」に採択されており、自らの強み・特色を活かす戦略的な事業実施が求められている。そこで昨年度下半期に行った自主事業のアンケート調査分析に基づいて客観的な評価を把握し、改善策を検討していくものである。

そこで本年度は以下の方針に基づき、事業の充実と効率的な業務の進行に努めたい。

- (1) オーケストラが「住む」ホールとして新日本フィルを活用する多彩な公演を実施するとともに、区内全域の小中学校や保育園、福祉施設、コミュニティセンターなど、さまざまな場で演奏活動を行うことで、多くの区民が音楽に出会える環境を創出する。
- (2) 国内外から優れた指揮者やソリスト、演奏団体等を招いて、クラシックを中心にジャズやワールド・ミュージック、コンテンポラリーまでバラエティに富むプログラムを実現し、都内及び近郊の他ホールとの差別化により墨田区周辺区域、千葉、埼玉、茨城に至る広域から聴衆を呼び込む。
- (3) 地域で音楽活動を行う団体や区民等に練習と発表の機会を提供し、ホール内外での主体的な催事等に支援、協力することで、音楽を媒介とするコミュニティの形成を図り、まちの活性化と幅広い音楽の担い手育成に貢献する。
- (4) トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラの活動拠点として音楽を志す子ども達が集い、共に音楽を創り上げることを通じて、自己肯定感を高め、お互いに認め合う心を育む。
- (5) 日頃ホールを訪れにくい人達を招く「誰でもコンサート」やバックステージ・ツアー、ホール探訪、公開リハーサル等、ホールを地域に開き、身近に感じる機会を設けていく。
- (6) 「音楽が息づくまち」としてホール及び新日本フィルの存在感を高める広報を行うとともに、各公演事業の内容特性に応じた情報発信を効果的かつ戦略的に展開する。
- (7) 質が高く安全・快適な施設運営を維持するため、委託業者を含め管理運営能力のさらなる向上に努める。施設の老朽化が進む中、定期的な保守点検と計画修繕を行い、施設・設備の安全管理を徹底していくとともに、災害時や非常時における必要な対策を講じていく。

1. 音楽等の鑑賞機会の提供

(1) 公演事業

すみだトリフォニーホールの大ホールを主な会場として、新日本フィルを活用した公演を実施するほか、世界で活躍する音楽家を招聘し、魅力的な公演事業を自主企画として実施する。

公演のラインナップは、親しみやすい内容で安価な料金設定をした「地域密着・普及啓発事業」、新日本フィルとの共演による意欲的な内容の「文化芸術創造・発信型事業」、さらには、内外から指揮者やソリスト等を招き、ホールイメージの向上を目指す「ブランドイメージ形成型事業」の3つの観点から実施する。

また、その他主催事業として、大ホールのシンボルであるパイプオルガンの演奏に加え、日頃は非公開となっているバックステージのツアーを実施する。

さらに、区民割引を適用した低廉な価格で音楽の鑑賞機会を提供するほか、大ホールの特性を活かした多彩な共催により当ホールにおける公演事業の幅を広げていく。

■フランチャイズ・オーケストラ活用主催公演（6事業7公演）

No.	名称／時期／対象／企画趣旨	内 容	
1 2	【名称】 新日本フィルの生オケ・シネマ「チャップリン 《キッド》《担へ銃》」（午前・午後2公演） 【時期】 2019年5月25日（土） 【対象】 吹奏楽愛好家、NJP会員等 【企画趣旨】 地域密着・普及啓発型事業①② 「モダン・タイムス」「街の灯」「黄金狂時代」に続く、チャップリン・シリーズ第4弾。コンサートホールとして生音にこだわり実施する。	指揮者	ティモシー・ブロック
		ソリスト	なし
		演 目	映画：チャップリン「キッド」「担へ銃」
		料 金	一律 6,000 円（区民 4,800 円、高校生以下 1,000 円）
3	【名称】 下野竜也 音楽の魅力発見プロジェクト 【時期】 2019年8月4日（日） 【対象】 初心者・初級者 【企画趣旨】 地域密着・普及啓発型事業③ シリーズ企画の第6回。区民を中心とした低料金のオーケストラ鑑賞音楽機会を提供。前回に続きレクチャー付きコンサートとして実施する。	指揮者	下野竜也
		ソリスト	なし
		演 目	チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」
		料 金	一律 4,000 円（区民 2,000 円、すみだ学割 1,000 円）
その他	関連事業として、終演後にバックステージ・ツアーを実施予定		
4	【名称】 尾上菊之助×新日本フィル 【時期】 2019年8月27日（火） 【対象】 歌舞伎&オケ・ファン、NJP会員等 【企画趣旨】 文化芸術創造・発信型事業① 歌舞伎とオーケストラのコラボレーション企画。2016年のすみだ北斎美術館開館記念公演に続く第2弾として実施する。	指揮者	角田鋼亮
		ソリスト	尾上菊之助ほか
		演 目	舞踊「鶯姫」、チャイコフスキー：「白鳥の湖」
		料 金	S席 9,000 円（区民 8,100 円、すみだ学割 1,000 円）
その他	関連事業として、レクチャーを8月に実施予定		
5	【名称】 トリフォニーホール・グレイト・ピアニスト・シリーズ 2019/20「トリフォニーホールゴルトベルク変奏曲＋ヴィンキングル・オラフソン & 新日本フィル」 【時期】 2019年12月11日（水） 【対象】 ピアノ&オケ・ファン、NJP会員等 【企画趣旨】 文化芸術創造・発信型事業② 同企画の番外編として、ゴルトベルク変奏曲に影響された作品を中心に、レクチャー付きコンサートとして実施する。	指揮者	なし
		ソリスト	ヴィンキングル・オラフソン
		演 目	モーツァルト：ピアノ協奏曲第24番ほか
		料 金	S席 5,500 円（すみだ学割 1,000 円）
その他	関連事業として、アウトリーチ公演を実施予定		

6	【名称】 トリフォニーホール・グレイト・ピアニスト・シリーズ 2019/20「ジャンルカ・カシオーリ&新日本フィル」 【時期】 2020年1月20日(月) 【対象】 ピアノ&オケ・ファン、NJP会員等 【企画趣旨】 文化芸術創造・発信型事業③ 前半ソロ、後半オーケストラとの共演というトリフォニーホール独自のプログラムにより、ソリストの魅力に迫る。	指揮者	本名徹次
		ソリスト	ジャンルカ・カシオーリ
		演目	ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第2番ほか
		料金	S席 6,000円(すみだ学割 1,000円)
7	【名称】 トリフォニーホール・グレイト・オーケストラ・シリーズ 2019/20 すみだ平和祈念音楽祭 2020 「上岡敏之&新日本フィル」 【時期】 2020年3月10日(火) 【対象】 オケ・ファン、NJP会員等 【企画趣旨】 文化芸術創造・発信型事業④ 新日本フィル音楽監督・上岡敏之による平和祈念コンサート。ソリストには被災地等出身の音楽家の出演を予定	指揮者	上岡敏之
		ソリスト	予定
		演目	未定
		料金	S席 7,000円(区民 3,500円、すみだ学割 1,000円)
		その他	関連事業として、公開リハーサルを3月8日(日)に実施予定

■大ホール等における自主企画公演 (9事業 12公演)

No.	名称/時期/対象/企画趣旨	内容	
1	【名称】 ラトヴィア放送合唱団 【時期】 2019年6月2日(日) 【対象】 合唱愛好家/音楽愛好家 【企画趣旨】 ブランドイメージ形成型事業① 世界的に活躍するプロ室内合唱団。2017年の来日に続き、トリフォニーホール 2度目の登場。世界最高峰の合唱音楽を体験する。	出演者	シグヴァルズ・クラウヴァ(指揮)、ラトヴィア放送合唱団ほか
		演目	ブラームス:愛の歌ほか
		料金	S席 5,000円(すみだ学割 1,000円)
2 3	【名称】 トリフォニーホール・グレイト・ピアニスト・シリーズ 2019/20 【時期】 ①2019年6月4日(火) ②2019年11月13日(水) 【対象】 楽器愛好家/音楽愛好家 【企画趣旨】 ブランドイメージ形成型事業②③ 若手から巨匠まで個性的なピアニストをラインナップした企画。	出演者	①ピョートル・アンドルシェフスキ(ピアノ) ②ピーター・ゼルキン(ピアノ)
		演目	①ベートーヴェン:ディアベリ変奏曲 ②シューマン:森の情景
		料金	①S席 6,000円(すみだ学割 1,000円) ②S席 7,000円(すみだ学割 1,000円)
4 5	【名称】 トリフォニーホール・グレイト・オーケストラ・シリーズ 2019 【時期】 ①2019年6月30日(日) ②2019年7月8日(月) 【対象】 オケ・ファン 【企画趣旨】 ブランドイメージ形成型事業④⑤ 新日本フィルと海外のオーケストラによるシリーズ。オーケストラの集うホールとして、多彩なオーケストラの出演により、ファンの拡大を図る。	出演者	①クリスティアン・アルミンク(指揮)、ベルギー王立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団 ②エリアフ・インバル(指揮)、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団
		演目	①サン=サーンス:交響曲第3番「オルガン付」 ②マーラー:交響曲第1番「巨人」
		料金	①S席 12,000円(すみだ学割 1,000円) ②S席 12,000円(すみだ学割 1,000円)
6	【名称】 すみだ×浜松「浜松国際ピアノ・コンクール優勝者記念コンサート」 【時期】 2019年8月5日(月) 【対象】 ピアノ・ファン 【企画趣旨】 地域密着・普及啓発型事業④ 日本が誇る世界的なピアノ・コンクールである「浜松国際ピアノ・コンクール」の優勝者によるリサイタル。区民招待企画として実施する。	出演者	ジャン・チャクムル(ピアノ)
		演目	ショパン:ワルツ第1番「華麗なる大円舞曲」ほか
		料金	一律 3,000円(区民無料招待)
7	【名称】 ソッリマと100人のチェリストたち 【時期】 2019年8月12日(月・祝) 【対象】 ワールドミュージック・ファン 【企画趣旨】 ブランドイメージ形成型事業⑥ 世界的なチェリスト・作曲家であるジョヴァンニ・ソッリマを中心に、世代、キャリアを超えて100人のチェリストが集う企画。	出演者	ジョヴァンニ・ソッリマ(チェロ・作曲)、公募による100人のチェリストたち
		演目	北斎をテーマとした作品ほか
		料金	一律 6,000円(区民 4,800円、すみだ学割 1,000円)

8	【名称】トリフォニーホール《パイプオルガン・クリスマス・コンサート》 【時期】2019年12月22日(日) 【対象】初心者・初級者 【企画趣旨】地域密着・普及啓発型事業⑤ 地域への普及啓発を意識した安価で、近(名曲)な短い公演時間の企画。クリスマスにちなんだ音楽を中心に実施する。	出演者	札幌キタラホールのホールオルガニストを予定。その他ゲスト検討中
		演目	オルガンの名曲からクリスマス・キャロルまで親しみやすい内容。オルガン奏者の手元・足元をスクリーンに映写
		料金	一律2,000円(区民・すみだ学割1,000円)
9	【名称】新日本フィル・ニューイヤー・コンサート 2020 in すみだ曳舟(曳舟文化センター) 【時期】2020年1月4日(土) 【対象】初心者・初級者 【企画趣旨】地域密着・普及啓発型事業⑥ 区北部地域での音楽鑑賞機会提供として実施する。前半に落語を加え、気軽にオーケストラを楽しむことができる内容として企画	出演者	角田鋼亮(指揮)新日本フィル、未定(落語)ほか
		演目	第1部:落語、第2部:オーケストラ
		料金	一律4,000円(区民3,000円・すみだ学割1,000円)
10	【名称】トリフォニーホール「みんなで歌おうく第九」コンサート 【時期】2019年12月28日(土) 【対象】オケ・ファン 【企画趣旨】地域密着・普及啓発型事業⑦ すみだゆかりの「第九」から第4楽章を、一般参加による客席の大合唱とオーケストラによる音楽納めイベント	出演者	松尾葉子(指揮)、トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラほか
		演目	ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」より第4楽章
		料金	一律1,500円(高校生以下無料)
11 12	【名称】すみだ平和祈念音楽祭 2020 【時期】①2020年3月3日(火) ②2020年3月7日(土) 【対象】弦楽器ファン、NJP会員等 【企画趣旨】文化芸術創造・発信型事業⑤⑥ 音楽による平和のメッセージ発信企画として実施する。名曲からコンテンポラリー作品まで多彩なプログラムを予定	出演者	①ネマニヤ・ラドヴロヴィチ(ヴァイオリン)&ドゥーブル・サンス ②ピーター・グレッグソン(チェロ)
		演目	①ヴィヴァルディ:四季 ②グレッグソン:リコンポーзд・バッハ無伴奏チェロ組曲
		料金	①S席6,000円(区民4,800円、すみだ学割1,000円) ②S席5,000円(区民4,000円、すみだ学割1,000円)

■その他主催公演

名称/時期/対象/企画趣旨	内容	
【名称】バックステージ・ツアー&オルガン・コンサート 【時期】未定 【対象】一般 【企画趣旨】 好評のバックステージ・ツアーについては、対象者を拡大しつつ、パイプオルガンの有効活用を図る。	出演者	オルガニスト(未定)
	演目	バックステージ・ツアー+オルガン・ミニコンサート
	料金	500円(予定)

■新日本フィルとの共同主催・共催による公演

	実施時期	公演名	会場
共同主催	4月6日(土)	ファミリーコンサート(指揮:宮川彬良)	すみだトリフォニーホール 大ホール
	7月27日(土)	サマーコンサート(指揮:上岡敏之)	
	12月31日(火)	ジルベスターコンサート(指揮:宮川彬良)	
	1月3日(金)	ニューイヤーコンサート(指揮:角田鋼亮)	
共催	通年、18公演程度	名曲を中心とした「ルビー〈アフタヌーンコンサート〉」	すみだトリフォニーホール 大ホール
	通年、16公演程度	定期演奏会「トパーズ〈トリフォニー・シリーズ〉」	
	12月21日(土)	「第九」特別演奏会	

■共同主催公演

実施時期	公演名	会場
8月16日(金)~17日(土)	すみだストリートジャズフェスティバル	すみだトリフォニーホール大・小ホール

■その他共催公演（14公演程度）※この他、追加の予定あり。

実施時期	公演名	会場
6月13日(木)	アルフレッド・ハウゼ・タンゴ・オーケストラ	すみだトリフォニーホール大ホール
6月26日(水)	樫本大進&ベルリン・バロック・オーケストラ	
9月21日(土)	シュテファン・ヴラダー ピアノリサイタル	
9月29日(日)	ブルガリアン・ヴォイス・アンジェリーテ	
10月29日(火)	ライブツィヒ放送交響楽団	
11月2日(土)	ブラック・ダイク・バンド	
12月1日(日)	辻井伸行 ピアノリサイタル	
12月8日(日)	ケルティック・クリスマス	
12月12日(木)	ディズニー・オン・クラシック	
12月14日(土)	上原ひろみ	
3月12日(木)	広島交響楽団	
3月13日(金)	広島交響楽団	
3月15日(日)	生オケ・シネマ「映像の世紀」	
3月22日(日)	群馬交響楽団	

(2) アウトリーチ事業

新日本フィルによる区立小中学校での音楽指導事業やコミュニティ・コンサートのほか、区内福祉施設等におけるふれあいコンサートなどのアウトリーチ活動を以下のとおり実施する。

内容	会場
新日本フィル楽団員による「音楽指導」	区立小学校 25校、中学校 11校
新日本フィルによる「コミュニティ・コンサート」(2回) 10月20日(日) 指揮:未定	区立小・中学校
新日本フィルによる室内楽コンサート 「ふれあいコンサート」(18か所程度)	区内福祉施設等

2. 区民等による音楽活動の促進及び育成

(1) トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラの運営

次代を担う音楽家や芸術愛好家を育成するために、トリフォニーホール・ジュニア・オーケストラによる、定期的な練習と区内外での演奏会を年6回程度実施する。

実施時期	内容	会場
通年、週1回程度	練習	すみだトリフォニーホール
通年、年5回程度	アンサンブル公演	区内各所
8月1日(木)	夏休みオーケストラ・コンサート	すみだトリフォニーホール大ホール
8月2日(金)	ようこそ誰でもコンサート	
8月16日(金) ～19日(月)	ジュニアオーケストラフェスティバル in 浜松 (演奏旅行)	アクトシティ浜松
10月20日(日)	区障害者(児)スポーツ・レクリエーション大会	墨田区総合体育館
10月27日(日)	学校コンサート	両国小学校
3月29日(日)	第29回演奏会	すみだトリフォニーホール大ホール

(2) 区民音楽祭の実施

区内で活躍するアマチュア音楽団体等に、すみだトリフォニーホールでの演奏の機会を提供するとともに、その活動を支援するため、以下の事業を実行委員会により実施し財団が事務局を担う。

実施時期	内容	会場
8月18日(日)・24日(土)・25日(日)	すみだ音楽祭	すみだトリフォニーホール大・小ホール

3. 公演情報等の発信

錦糸町駅周辺を中心に、すみだトリフォニーホールのサインやポスターの掲出を行うとともに、公演情報については、その特性にあわせて、新聞や専門誌、WEB、SNS など多様な媒体を効果的に組み合わせて発信する。また音楽評論家やジャーナリスト、新聞記者等の人的ネットワークを広げ、記事掲載や情報発信を働きかける。

また、トリフォニーホール・チケットメンバーズ約 17,000 人に対し、週 1 回のメルマガ配信などサービスを充実させ会員の加入促進を図ることにより、当ホールへのリピーターを増やしていく。

4. 施設の利用及び維持管理に関する業務

(1) 施設利用に関する業務

- 施設設備の利用申請、承認、利用料金の徴収については、すみだトリフォニーホール条例及び同条例施行規則に基づき適正に処理をする。また、利用の適格性や利用申請の重複 による優先順位を審査する「施設利用調整委員会」を定期的開催し、公平かつ公正な施設利用に努める。
- 施設等の利用者サービスの向上を図るため、ホールへの意見・要望の共有化やサービス改善への具体的検討を行うため、ホールスタッフによるミーティングを定期的開催する。
- 利用者が安心して利用できる施設環境を維持するため、施設内外の巡回や点検により、安心・安全の確保を図る。また、急病人・怪我人等の事故が発生した場合の迅速な処理に努めるほか、地震・火災等に備え、消防計画に基づき消防訓練を実施するとともに、錦糸町第3街区4棟共同防火管理協議会の地区隊にも所属していることから、他の隊と協力して消防訓練を実施する。

(2) 施設設備の維持管理

当ホールが多くの人々が集う公共施設であることから、良好で快適なホール環境の維持に努めていく。設備等の劣化及び破損等については、日常的に点検し安全確保や機能維持のための小規模修繕を適切に実施する。

さらに大規模修繕については、ホール運営への影響を可能な限り最小化するために、区及び関係者との間で協議を進め、実施スケジュール等の具体化を図っていく。

II. すみだ北斎美術館を核とする美術等の振興事業

北斎を核とした墨田区の文化芸術振興施策の重要拠点として、区と連携しながら美術館の魅力を発信し、地域の文化関連団体や施設等とのネットワークによる事業を展開する。あわせて、北斎を顕彰する専門美術館として関連学会等と連携しつつ認知度向上を図り、利用者満足度の高い展覧会、新しい形式の展覧会やイベントを企画・実施するとともに、教育普及活動にも力を入れていく。

開館より2年半が経過したことを踏まえ、本年度は、美術館の置かれている様々な環境の変化を明確に捉えていく。そのうえで、より安定したホスピタリティあふれる館運営を実現し、美術館の諸事業を通じた文化芸術振興と地域の活性化にいっそう寄与することを目指す。

東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて、国内外からの来館者、特に海外からの来館者誘客に力を入れ、北斎を契機とする国際交流の一助となるよう努めていく。また国内はもとより海外の美術館との交流を推進していく。

- (1) 北斎の画業や人物像に多面的な切り口から迫り、その時代背景の考察や今日に及ぶ影響まで、幅広い観点からの展示事業を実施する。
- (2) 国内外の他美術館と連携し、その所蔵品展示等によって来館者に展示会を提供し、併せて来館者増につなげていく。また、国外からの来訪者を呼び込むサービスの提供及び多言語化対応に努めるなど、国内外に向けた情報発信と交流を促進する。
- (3) 区民の生涯学習の場としての役割を担うとともに、墨田区教育委員会及び教育諸団体と連携して、児童、生徒、学生に向けても北斎の偉業を伝え、郷土が育んだ日本の偉人として周知していく。
- (4) 北斎等をテーマとする「すみゆめ」プロジェクトをはじめとするアートプロジェクトや区内の文化施設、周辺施設と連携し、文化活動を推進するとともに、両国地区の観光事業に協力し、観光・産業など地域の活性化に寄与する。
- (5) 合理的で効率的な施設運営を目指すとともに、新たな来館者層の開拓、リピーターとなる美術館ファンの獲得を図り、安定した集客が継続的に実現できる運営基盤を構築する。
- (6) これまでの来館者の意見も考慮し、展示内容の魅力を高めるためオリジナル作品を含めた新しい形式の常設展を行い、来館者及び収入増の実現を目指す。

1. 資料収集・保管事業

区の収集方針に従い、学芸員が専門性を活かしながら積極的に資料を探し出し、作品収集に貢献する。区の求めに応じて候補資料の調査から収集まで全面的に協力を行うとともに、浮世絵及び関連資料を次代へと受け継げるよう適切に収蔵品を管理・保管する。

2. 調査研究事業

北斎を中心にその門人の作品や関連及び交流のあった人物、すみだをはじめとする北斎ゆかりの地との関わりなど、多角的な視点から調査研究し、その成果をデータベースに反映させ情報の蓄

積や充実を図り、展示や刊行物を通じて一般から専門家まで広く情報を発信していく。

【調査・研究の対象と視点】

- ・ すみだをはじめとするゆかりの地との関わりについて
- ・ 北斎とその門人の肉筆画・版画・版本等の作品の調査・研究
- ・ 北斎と同時代の文化との関連の研究

3. 展示事業

話題性と魅力に富む展覧会を立案するとともに、講座やイベントなどの関連企画や教育普及活動との連動により、集客を意識した展示事業を実施していく。

常設展示では、従来通り、北斎の生涯についてレプリカ作品と情報端末でわかりやすく紹介するとともに、新しい形式の展示を試行的に実施し、オリジナル作品も観覧できるように配慮する。

企画展示では、北斎とその門人の作品展示を基本としながら、北斎の偉業を幅広くとらえ、多角的な展示を行い、利用者目線に立った展示方法に取り組む。さらに重要文化財の借用展示に向けて関係者と協議を行い、公開承認施設の認定を目指していく。

■企画展示の年間計画

展覧会名	北斎アニマルズ
開催期間	4月2日(火)～4月7日(日)【6日間】 ※前年度より継続
観覧者数	2,300人見込
展覧会名	北斎のなりわい大図鑑
開催期間	4月23日(火)～6月9日(日)【43日間】
展示概要	江戸時代には、現在ではなじみのなくなってしまう職業がある一方、現代の商売のルーツになる生業も存在する。北斎の作品には、様々な働く人々が描かれている。仕事に注目して制作された作品もあれば、景色の中に登場することもある。本展では、北斎の新出の肉筆画「蜆売り図」をはじめ、館蔵品を選び、北斎一門による江戸の生業が描き出された作品を展示する。仕事に着目すると、その社会のありかたが見えてくる。働く人々に向けられた北斎のまなざしを通して、江戸の生業を紹介する。
展示点数	約80点
主な展示資料	葛飾北斎「蜆売り図」(肉筆)、葛飾北斎「富嶽三十六景 尾州不二見原」(版画)
観覧料	一般 1,000円
観覧者数	17,100人見込
展覧会名	綴プロジェクト フリーア美術館の北斎展(仮題)
開催期間	6月25日(火)～8月25日(日)【54日間】
展示概要	キヤノン最新のデジタルイメージング技術と京都伝統工芸の技によって、日本の文化財の高精細複製品を制作する「綴プロジェクト」。平成30年度に制作されたアメリカ・フリーア美術館の北斎作品の高精細複製品を、当館の北斎に関する研究成果とともに紹介する。また館蔵品より関連作品を展示する。
展示点数	約70点
主な展示資料	葛飾北斎「玉川六景」(フリーア美術館原品所蔵 高精細複製品) 葛飾北斎「波に千鳥図」(肉筆画) 葛飾北斎「波濤図」(フリーア美術館原品所蔵 高精細複製品) 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(版画)
観覧料	一般 1,000円
観覧者数	22,000人見込

展覧会名	北斎没後170年記念 茂木本家美術館の北斎名品展(仮題)
開催期間	9月10日(火)～11月4日(月・祝)【49日間】
展示概要	キッコーマン創業家である茂木本家の第12代茂木七左衛門が収集した美術品を展示する館として、2006年に千葉県野田市に開館した茂木本家美術館。本展では、同館コレクションから「富嶽三十六景」「諸国瀧廻り」「諸国名橋奇覧」といった北斎の著名なシリーズ、「青富士」の通称で知られる「富嶽三十六景 凱風快晴」の異版、彫刻家の藪内佐斗司氏による北斎のブロンズ作品など、北斎や一門および関係作品約100点を紹介する。同館以外での本格的なコレクション紹介は初の機会となる。
展示点数	約100点
主な展示資料	葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」(版画) 葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴(異版 青富士)」(版画)
観覧料	一般 1,200円
観覧者数	21,000人見込
展覧会名	北斎没後170年記念 北斎インパクト(仮題)
開催期間	11月19日(火)～1月19日(日)【51日間】
展示概要	小布施の北斎館が所蔵する北斎作品を中心とした肉筆画や「富嶽三十六景」シリーズなどの名品を展示する展覧会を開催する。北斎館との交換展として、9月14日(土)から11月10日(日)までは、北斎館でピーターモースコレクションを中心としたすみだ北斎美術館所蔵品展を開催し、北斎の個人顕彰美術館の交流を深める。
展示点数	約130点
主な展示資料	葛飾北斎「男波図」(天井絵)、葛飾北斎「富士越龍図」(肉筆画) 葛飾北斎「日新除魔」(肉筆画)、葛飾北斎「肉筆画帖」(肉筆画) 葛飾北斎『白拍子』(肉筆画)
観覧料	一般 1,200円
観覧者数	21,000人見込
展覧会名	北斎師弟対決(仮題)
開催期間	2月4日(火)～4月5日(日)【54日間、うち31年度は49日間】
展示概要	北斎には孫弟子も含めて200人も弟子がいたという。本展では、北斎と弟子が同じテーマで描いた作品を展示し、両者を比較する中でそれぞれの画風の特徴や影響関係を明らかにする。館蔵品をよりすぐり、北斎の魅力にとどまらず、従来師匠の名の影に隠れていた弟子の作品の魅力も紹介する。
展示点数	約80点
主な展示資料	葛飾北斎「鎌倉の権五郎景政 鳥の海弥三郎保則」(版画) 抱亭五清「椿説弓張月巻中略図 山雄(狼ノ名也)主のために蟒蛇を噛て山中に軀を止む」(版画)
観覧料	一般 1,000円
観覧者数	19,700人見込

4. 教育普及事業

北斎や浮世絵などへの理解促進を図ることを基本としながら、美術館活動への理解と地域や郷土を愛し誇りとする心を育むことを主眼に、対象者の層に応じた多岐にわたる教育普及活動を行う。館内での活動だけでなく、教育機関との連携や、さまざまな地域活性化プログラムとも連動しながら、館外での取り組みにも注力していく。

(1) 館に親しみを持つ層の拡大

各方面の幅広い層を対象に北斎をよりよく知ってもらうための各種講座、イベント、ワークショップを館内外で実施する。区内にとどまらず区外への出講も積極的に取り入れ、当館の魅力を知っても

らうとともに、来館を促す活動を進めていく。また東京2020オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、国外からの来館者も北斎への理解を深められるような取り組みを行い、障がいのある方々が北斎と美術館に親しみをもてるよう、鑑賞方法や解説などを工夫する。

企画展の展示替えの期間においても、集客につながるイベントやワークショップなどを実施していくとともに、観光客でも気軽に参加できるような、魅力のあるイベント、ワークショップを実施する。

(2) 児童・生徒及び教育機関に対する取り組み

区内及び区外の学校に出向いて、北斎の基礎的な情報を知ってもらう講座や、北斎を学び体験する授業等、校種、学年に応じた多彩なプログラムを実施する。学校の団体利用については教育委員会や教育研究会と連携し、北斎や展示内容に関する講義や解説を行う。

(3) 地域との結びつきを深める取り組み

墨田区の文化振興事業と連携して、美術館を地域の文化活動の拠点として活用するような活動を推進していく。地元団体等と協力することで、地域の活性化につながる活動を検討する。

5. 図書室運営事業

北斎に関する専門図書室として所蔵資料の情報を適切に整理し、子どもから研究者まで多様な利用者の興味関心に応えられるよう、開架と閉架を併用したサービスを行う。開架では手に取りやすい一般書籍を中心として閲覧に供し、貴重書は閉架書庫にて保管する。

あわせて、展覧会に応じた特設コーナーや子ども向けコーナーを設けるなど、誰もが入室しやすい環境を整えて「開かれた図書室」を目指す。

【業務内容】

- ・ 図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、複写サービス等
- ・ 専用情報システムによる収蔵図書資料に関する情報提供

6. 施設の利用及び維持管理に関する業務

ユニークベニューとしての利用促進を図るべく、各種イベントやレセプション等の開催場所として施設を活用する。公平・平等な運営により、施設の利用促進及び利用者サービスの向上を図るとともに、美術館が連携する企画や区民の文化活動を支援するために講座室を貸し出す。

貴重な北斎作品等資料を保管・展示する美術館として、施設管理、清掃、警備管理等の業務に優れた実績と経験を有する第三者に委託し、適切に施設管理業務を実施する。あわせて集客施設として、来館者により密接な受付・案内業務を効率的に行う。なお、繁閑等の状況に応じて、必要なポスト数をフレキシブルに調整する。

Ⅲ. 墨田区域における文化芸術活動の支援事業

墨田区の様々な文化芸術活動や拠点に関する情報を収集・発信し、本区に活動拠点を置く文化団体やアーティスト等の活動を支援すべく、助成事業やサイト運営等を行う。また、すみだ北斎美術館の開館を契機として始まったアートプロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」(通称:すみゆめ)の実行委員会事務局を担い、事業の円滑な推進をはかる。

助成事業や「すみゆめ」等を通じて、本区を中心に起きている多彩な文化芸術活動の動向を把握し、文化団体やアーティスト等からの相談に応じ、場の提供や人材の紹介などを行っていく。多くの文化芸術活動の担い手が集い、ネットワークが形成され、幅広い分野で新たな活動が創造されるよう、その基盤整備に努めていく。

1. すみだ文化芸術活動助成事業

区民の文化芸術活動の活性化と促進をはかるため、区内を活動拠点とする文化団体を対象とした育成事業で、平成 30 年度に区から財団に事業移管された。新年度、早期の事業実施に対応するため、助成の募集及び選考は 30 年度中に行った。

公募段階での申請者からの相談や選考前のヒアリング、さらには助成活動の現地視察を行うことで、助成団体や活動の実態と課題を把握し、本事業の成果をはかるとともに制度の改善に反映させていく。

■実施概要

- ・ 補助対象:5 人以上で構成される団体で、構成員の 3 分の 1 以上が区民であり、かつ区民が主体となって活動していること。区内に主たる事務所または活動拠点を有し、原則として、区内で 1 年以上の活動実績があること。
- ・ 補助金額:対象経費の合計額の 2 分の 1 以内で、100 万円を上限とする。
- ・ 平成 31 年度助成予定:補助金総額 3,450,000 円、交付対象 7 件(申請件数 10 件)

2. 「すみだ文化芸術情報サイト」の運営

墨田区の文化芸術情報の収集・発信を行うため、平成 26 年度に開設した本サイトは、区内の官民の文化施設及び文化拠点、区内に活動拠点を置くアーティスト・文化団体情報が登録方式で集約されており、登録者が区内で行うイベント情報を掲載できる。

昨年度より財団に事業移管されて本サイトを運用しているが、登録者数及びイベント情報の掲載件数が伸びず、発信力に乏しいという課題がある。このため、情報サイトのあり方を検討しつつ、より使いやすく活用されるサイトとなるよう、イベント掲載条件の改訂と、掲載情報の内容を検討していく。

■運用実績 (平成 30 年 4 月 16 日～31 年 2 月 28 日)

- ・ 登録数:146 件(アーティスト 49 件・団体 34 件・施設 49 件・公共施設 14 件、前年度 137 件)
- ・ 総アクセス数:14,449 件 (前年度 40,921 件)
- ・ 総ページビュー:28,955PV (前年度 84,892PV)

3. 文化政策及び文化事業に関する調査

昨年度、墨田区からの委託により実施した「文化芸術振興のあり方」検討調査に基づき、財団の中間支援機能を高めるために、国や他自治体の文化政策の動向等について継続的に情報収集を行う。あわせて、財団が行う事業の改善に向け、必要に応じて、財団アドバイザリーボードや文化政策の研究者等の意見を参考に検討する。

4. アートプロジェクト等の推進事業

すみだ北斎美術館の開館を機にスタートしたアートプロジェクト「隅田川 森羅万象 墨に夢」を実行委員会により実施し、その事務局運営を財団が担う。実行委員会では、「北斎」「隅田川」を主なテーマに区内及び隅田川流域で行われる多彩な表現活動を募集し、補助金を交付するとともに、参加団体相互の交流を促す企画を推進する。あわせて、「すみゆめ」を象徴するような企画を主催事業として実施する予定である。

2020年を一つの節目と捉え、区民等による主体的な活動を支援し、すみだの地域資源と魅力を顕在化させることで、さまざまな場とNPOやアーティストなど文化芸術の担い手をつなぎ、人的ネットワークの形成を目指す。

■「隅田川 森羅万象 墨に夢」の実施概要（実行委員会案）

- 採択企画1件あたり補助金上限100万円、区の施設の無料・減免での利用可、技術サポート（照明・音響、展示施工など）の相談にも応じる。
- チラシ、WEB、SNSを活用した広報とライターによる活動レポートを配信する。
- 採択企画のほか、趣旨に賛同する「ネットワーク企画」を募り、広報連携等を行う。
- すみゆめ参加団体が集う「寄合」を月1回程度、各団体の活動拠点などで実施し、情報共有と意見交換を行う。
- 選考委員による活動視察や公開の報告会で成果を共有し、次年度へ継承していく。

■スケジュール（実行委員会案）

実施時期	内容
2019年4月1日～25日	「すみゆめ2019」企画募集
5月下旬	選考会にて採択企画を決定
6月上旬	採択企画の発表、参加団体へのオリエンテーション
9月1日～12月25日	「すみゆめ2019」メイン期間
2020年2月下旬	報告会

5. 地域における文化芸術活動への協力及び参加

- 墨田区が2020年に向けて実施する、観光や産業振興、福祉、教育等の分野と関わる文化芸術活動の実施に際しては、区との適切な役割分担及び協力体制のもと、これを推進する。
- 地域で活動する文化団体や町会等が企画する催事への協力依頼に積極的に応じるとともに、区内に存する官民の文化施設等とのネットワークを形成し参加することで、地域における当財団の存在感を高める。